



中央ウェイ

3月号

学校評価アンケートの集約結果及び学運協の提言

副校長 姫野 滋子

オミクロン株の新規感染者数は減少傾向に転じてはいますが、都内ではまだ連日1万人を超えています。教職員は3回目のワクチン接種を受け始めています。ワクチン接種は強制ではありません。また、ワクチン未接種の人への差別は絶対に許されないことです。しかしながら、本校産業医によると、ワクチン接種は可能な限り早く受ける方が良いとのこと。これまで取り組んできた手洗い、消毒、マスク着用等の対策と、ワクチン接種、体調管理等を効果的に組み合わせ、感染拡大を食い止めたいものです。

2月10日(木)に、今年度第3回の学校運営連絡協議会を行いました。生徒、保護者の皆様、教員のアンケート結果と学運協評価委員長(東京学芸大学 澤 隆史教授)からの提言の概要をお知らせします。

●アンケートの数値結果から(主な項目)

- 1 教員による評価
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策が十分に行われている。
 - ・昨年度と同様、週末課題の提示についてやや不足
 - ・授業でのICT機器は十分に行っている。
- 2 保護者による評価
 - ・教員の授業の工夫、子どもの授業内容の理解が分からないという回答が多い。
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策が十分に行われている。
- 3 生徒による評価
 - ・進路面談や進路に関する情報は充実している。
 - ・家庭でICT機器を活用して学習する機会が少ない。
- 4 その他
 - ・学校生活への満足度について、保護者の約10%、生徒の約11%が「やや不満」「不満」を感じている。保護者は横ばい、生徒は減少傾向である。

●アンケート自由記述から(抜粋)

- 1 学校生活で充実している点・満足している点
 - ・「勉強の分かりやすさ」「授業内容の工夫」「手話・UDトークによる情報保障」「友達や先生との学校生活」など、学校での教育活動全般について、充実している・満足しているという意見が多数あった。
 - ・検定対策が充実している。
 - ・コロナ禍でのオンラインの取り組みが充実している。
- 2 改善して欲しい点(抜粋)
 - ・教師のコミュニケーション方法や(手話の)技量等について、不十分を感じるという意見があった。
 - ・進路指導において、中学部の段階から生徒に情報提供をしてほしいという意見があった。
 - ・コロナ禍の影響で授業参観が減ったので授業の工夫が分からないなど学校での様子を知りたいという意見あり。

●評価委員会からの提言(評価委員長:東京学芸大学 澤教授)

アンケート結果全体を通じて、中央ろう学校が大学進学を目指す学校であることが周知されてきており、生徒や保護者も進学を前提として考えていることがうかがえる。教員の生徒と保護者のいずれにおいても、進学を意識した学習環境の充実を求めていることが推察される。

以上のことから、次年度への中央ろう学校への提言として以下の3点を挙げる。

- 1 本年度に引き続き、ICTの活用を含めた実態に即した指導、安全・安心な教育活動の充実に努めてほしい。授業等での活用の継続とともに、コロナ感染の状況への対応も見据えながら、保護者との連絡や情報共有などの面でも、ICTを柔軟に活用した対応を工夫することが望まれる。
- 2 生徒の自主的な学習の場や機会の充実に努めてほしい。授業を通じて得られたが学力や学習意欲をさらに高めていけるような学校環境や学習方法の整備、ICTの活用の工夫などについて検討を進めてほしい。
- 3 コロナ感染状況を踏まえつつも、校外での活動や生徒同士、保護者との交流の機会を設けることが望まれる。生徒の精神的、社会的成長を促すうえでも、安心・安全の確保に留意しながら可能な取り組みを期待したい。

これらのアンケート結果及び学運協評価委員会の提言を、来年度以降の学校経営に生かしてまいります。アンケートの御協力等、ありがとうございました。今後も忌憚ない御意見をお願いいたします。

なお、アンケート結果等の詳細なデータは、後日、本校のホームページに掲載いたします。